

湘 南 の 魅 力 発 見 プ ロ ジ ェ ク ト

平成29年度

湘 南 の 魅 力 発 見 プ ロ ジ ェ ク ト

湘南広域都市行政協議会 広域文化活動部会のこれまでの取組について

湘南広域都市行政協議会は、藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町の２市１町が広域行政の推進を図ることにより、住民サービスの向上、地域の活性化、行政の合理化及び能率化を実現するため、１９６２年（昭和３７）年に発足しました。協議会のもとに事務研究部会をはじめとする７つの専門部会を設置し、特定の課題解決に向けた取組や研究を行うなど、積極的な活動を進めています。その中の広域文化活動部会では、１９８４年（昭和５９）年より、湘南地域の文化振興、地域間交流を目的に、合唱祭、俳句大会、ダンスの発表会、美術展など、これまで様々な文化事業を行ってきました。２０１６（平成２８）年からは、「湘南の魅力発見プロジェクト」という新たな事業を実施しています。

■ 湘南の魅力発見プロジェクトとは



藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町の2市1町が連携し、湘南の新たな魅力を発見・発信していくプロジェクトです。湘南地域のまだあまり知られていない魅力やその価値を広めたいという思いから、2016（平成28）年よりスタートしました。

このプロジェクトでは、毎年異なるテーマのワークショップで湘南地域の魅力を表現した作品を制作し、その過程などを収めた映像と併せて、展示やネット配信などにより発表を行います。

2020（平成32）年に開催される東京オリンピック・パラリンピックも視野に入れ、文化芸術という側面から、湘南の魅力を地域内外に向けて広く発信していきます。

平成29年度の取り組みテーマについて



平成29年度は、“デザイン”をテーマにしたワークショップを行い、寒川町在住のグラフィックデザイナー・佐藤勝則さんを講師に迎え、湘南在住の中学生から20代までの参加者が、2市1町で親しまれている商品の新しいパッケージをデザインしました。

ワークショップでは、参加者が絵や工作などの方法によりデザインを行い、完成作品とその制作過程などを収めた映像を上映する巡回展示会を開催しました。

このワークショップでデザインされた新パッケージの商品の一部は、今後店頭で販売されます。

参加者の新たな視点や若い感性でデザインされた“湘南の商品パッケージデザイン”を通じて、これまで知らなかった湘南地域の新しい魅力を感じてください。

■ プロジェクトの経過について



平成28年度は、“映像”をテーマにしたワークショップを行い、藤沢市出身の美術作家伊藤久也さん、寒川町出身の映画監督三澤拓哉さんを講師に迎え、湘南在住の中学生から70代までの参加者とともに、映像作品「またそのうち、どこかでね。」と短編映画「C-side town」を制作しました。

完成作品は、イオンシネマ茅ヶ崎や2市1町の公共施設などで開催した上映会にて発表を行い、総勢400人以上の方にご来場いただきました。2つの作品は、現在 You Tube 上で公開しています。

■ パッケージデザインワークショップについて

ワークショップは合計5日間にわたって行われ、参加者は、商品と、商品の背景にある湘南地域の魅力を発見し、その魅力をパッケージに表現しました。

1日目

商品と関係の深い地域の歴史や文化資源などについて、また、「デザイン」とは何か、を学びました。

そして、実際に地域を散策し、商品を製造する企業を訪問しました。製造過程の見学などをしながら、商品のできた背景や商品の特性を聞きました。その後、デザインしたい商品を選び、3つのチームをつくりました。

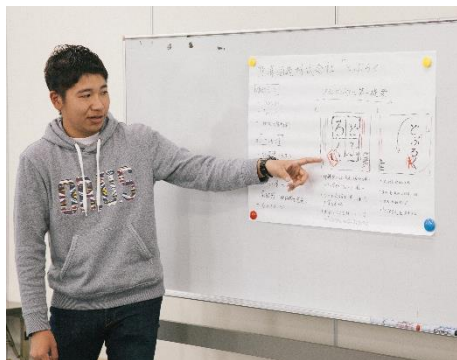
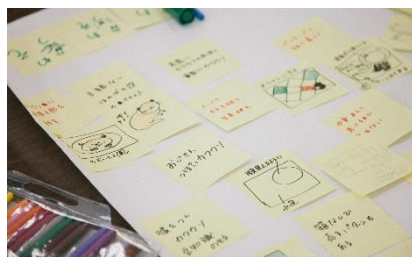
2～4日目

チームごとに意見やアイデアを出し合い、協力しながら、新しいデザインを考えました。

- ① まず、その商品にしかない魅力が何かを明確にし、商品コンセプトを決めます。
- ② 次に、その魅力が伝わる見せ方を探し、デザインコンセプトを決めます。
- ③ そして、素材、形、色、言葉など、様々な切り口から、楽しい見え方を試します。
- ④ 一目で伝わること、今までに無いこと、面白いことを基準に、デザインを決定します。
- ⑤ 決定したデザインは、より魅力的に、より一目で伝わるように、購買者の目で完成度を高め、試作品をつくりました。

5日目

参加者がデザインした作品を元に、講師が作成した立体見本を確認し、最終的なデザインを決定して、完成となりました。



デザイン対象商品①



現 品

商 品：「梶原まんじゅう」

干しぶどうとバター入りの黄身餡を使った洋風のまんじゅう。
店舗の近くにある梶原景時館址にちなんだ和菓子。

製造者：「豊月堂」

寒川町一之宮にて、和菓子の製造・販売を行う。町の特産品“寒川の年輪”は、第16回神奈川県銘菓展一般名菓の部で最優秀賞を受賞。

チームメンバー：a.t（寒川町）

ハルナ（藤沢市）

若菜 亜美（藤沢市）

デザインコンセプト

梶原まんじゅうの魅力は、“少し洋風の和菓子”であること。そして、歴史あるこの地域に、源頼朝^{みなものよりとも}の側近として活躍した鎌倉幕府の御家人・梶原景時^{かじわらかげとき}の館址^{やかたあと}があったことで、「梶原まんじゅう」の名がついたこと。

“少し洋風”と“梶原景時”、この一見関連性のない2つの魅力を若い女性の感性で結びつけました。

外国の方や若い女性を新たな客層のターゲットとして設定し、外国の方に魅力的に見えること、若い女性向けに“SNS映え”すること、という要素を入れたものを考えました。

デザインのテーマは、外国の方・若い女性への“和”のアピールと、展開の広がりを考え、“折り紙”に設定しています。

元の商品名“梶原まんじゅう”は、歴史上梶原姓^{かじわら}が他にもいたことから、“梶原”から“景時”^{かげとき}に、また、洋風の菓子であることや、外国人をターゲットとしていることから、「MANJU KAGETOKI」と変更しました。

折り紙は、店内でのPOPに使用したり、同店の他の菓子パッケージデザインへの展開など、今後様々な広がりが期待できます。



デザイン作品（個装）

デザインは“和”をアピールする折り紙をモチーフに、展開をします。

武将である梶原景時をイメージさせる“兜”^{かぶと}をシンボルにしました。色は日本の伝統色“藍”^{あい}を使用。



展開案

味違いの「MANJU ENJU」、まんじゅう以外の「MONACA UMEGAE」などの展開も今後考えられます。



デザイン作品（紙袋）

販売時に菓子を入れる紙袋も提案。^{かじわらかげときやかたあと}梶原景時館址にある梅の木を題材にしています。梅の花は折り紙での展開です。
和歌を好み、武家百人一首にも選出された^{かげとき}景時の教養を想わせます。

デザイン対象商品②



現 品

商 品：「かっぱ どぶろく」

茅ヶ崎産の米、酵母、水でつくる純米酒。要冷蔵。
米を食べるような味わいがある。

製造者：「^{くまざわしゅぞう}熊澤酒造株式会社」

茅ヶ崎市香川にある湘南唯一の蔵元で、日本酒「天青」、「湘南ビール」等の酒類を製造するほか、レストランやカフェ等の飲食業も営む。

チームメンバー：石射 英鈴菜（茅ヶ崎市）

ちはる（茅ヶ崎市）

福島 颯人（茅ヶ崎市）

デザインコンセプト

「かっぱ どぶろく」は本物の「どぶろく」です。すべて茅ヶ崎で産出されたもので造られています。

古くから酒蔵のあるこの地域は、良質の水源地が豊かな土地で、日本昔ばなしにもある「河童徳利」^{かっぱどっくり}伝説が、西久保地区に伝わっています。

現品は、「河童徳利」^{かっぱどっくり}をモチーフとして、河童のイラストをラベルに配した、洒落っ気のあるデザインとなっていました。

今回は、この河童のイラストを使用し、品質感のあるデザインを検討しました。

河童を目立たせつつ、「どぶろく」であること、地元のブランドであること、地元の米を使用していること、をテーマにデザインを検討しました。

濁り酒である「どぶろく」は、原料の米の粒感が残り、白濁色という特徴があります。

どぶろくをバックに、稲穂の黄金色のカッパが浮き立って見えるデザインに仕上がっています。河童の図柄を部分的に切り取り、大きくしたことで、店頭での目立ち度の高いデザインになりました。



黄金色の稲穂を感じさせる「金」を、メインカラーに設定しました。

飲んでいくうちに、ラベルの白い部分から下は、どぶろくが減らないように見え、酒が絶えることなく湧き出る不思議な「河童徳利^{かっぱどっくり}」のように感じる仕掛けです。

デザイン対象商品③



現 品

商 品：「かわうそサブレ」

製造所の所在地の地名“^{おまへづ}瀬郷”にちなんだ洋菓子。“瀬”は“かわうそ”とも読む。良質な国産バターを贅沢に使用している。

製造者：「社会福祉法人^{こうほうかい}光友会」

藤沢市^{おまへづ}瀬郷にある本部“湘南ふくし村”を拠点に、障がい者の入所支援や就労支援など様々な福祉サービスを行っている。

チームメンバー：榎井 駿輝（茅ヶ崎市）

榎原 つぐみ（茅ヶ崎市）

ウリエル（茅ヶ崎市）

高辻 歩（茅ヶ崎市）

みき（茅ヶ崎市）

デザインコンセプト

「かわうそサブレ」は手作りのあたたかみがあるお菓子です。

このお菓子がつくられる作業所“かわうそ工房”は、藤沢市^{おまへづ}瀬郷にあり、もしかしたらかわうそが住んでいそうな川や畑が広がる自然豊かなところ。そんな魅力を表現することからスタートしました。

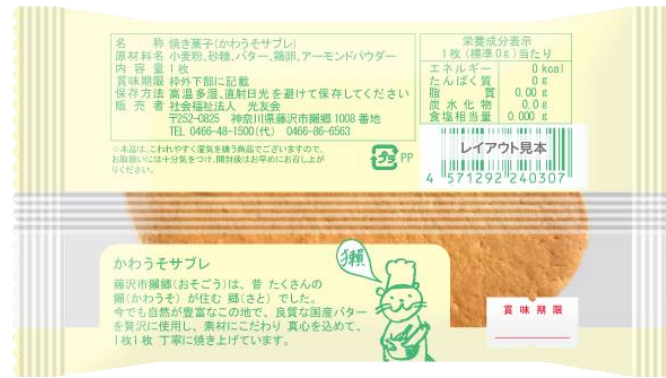
あたたかい雰囲気伝えるために、手描きの新しい“かわうそ”キャラクターのイラストをつくりました。

コック帽をかぶった“かわうそ”がボウルと泡立て器（ホイッパー）を持ち、お菓子をつくっています。

商品名の吹き出しは、様々な形を試した結果、このイラストとイメージを合わせました。

バターの美味しさ、優しさを表すクリーム色、^{おまへづ}瀬郷の豊かな自然をイメージした緑色を使用しています。

手描きのイラストをシンプルに表現することで、手作りのサブレを強く印象付ける、店頭で目立つパッケージデザインとなっています。



デザイン作品（個装）

サブレの質感を見せるパッケージ表面の透明な部分は、“かわうそ”の肉球の形にしました。

裏面には、今までリーフレットで説明していた“かわうそ”と“おそごう 郷”の話を入れ、リーフレットが無くても商品の魅力が伝わるようにしています。



デザイン作品（袋）

5枚入りで販売する際は、箱よりもコストのかからない、持ち帰り用袋を提案します。



デザイン作品（箱）

5枚入りで販売する際の箱は、他の菓子との詰め合わせ用などに引き続き使用するため、“かわうそ”と“おまごう 獺郷”の話を入れ、商品の魅力が伝わるようにしています。

参加者の声

かわうそサブレチーム

- ・自分の案が、実際のもの（ワークショップで出来上がったデザイン）に反映されているのを見て、やりがいを感じた。
- ・デザインの世界はもっと自由度が高いと思っていたけど、実際は制約や企業側の意図を考慮する必要があって、自分だけが気に入るものではないんだなと気づかされました。
- ・今までのデザインと新しいデザインを見比べてもらって、かわうそサブレのあたたかみ、自然を感じてほしいです。

どぶろくチーム

- ・（デザインを行う上での）制約に沿ってデザインするのが難しかった。
- ・客の目に留まり、かつクライアントの要望にも応えられるように考えるということは、重要だと感じた。
- ・ワークショップを通じて、商品の背景をよく知ったうえで、それを活かすデザインが大切だと思いました。
- ・（新しいパッケージを見た人に、）以前よりも酒らしさが出たと感じてほしい。学生がつくったと思われたくない。目にとまるデザインになったと感じてほしい。

景時まんじゅうチーム

- ・（商品の特徴、魅力である）「少し洋風」と「梶原景時」をどうやって関連させるかに時間がかかったと思います。
- ・テーマを一から自分で見つけ出して、一からデザインを考えたのはとても良い経験になったなと思います。
- ・“SNS 映え”を意識したデザインと、若い人・外国の方に和菓子の良さを伝えられたらいいなと思います。

■ 湘南地域の文化資源について



「湘南」というと“海”のイメージが強いですが、実際の湘南地域の中で、藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町（2市1町）を見ると、海だけではなく、緑豊かな丘陵と広い空、清らかな川の流れがあります。豊かな風土と、海が近いことによる穏やかな気候で、古くから人々が暮らし、歴史と多くの文化資源（名所・旧跡、歴史的建造物、自然景観、伝統芸能、祭り、特産物など）がもたらされました。

湘南地域の文化資源について、平成29年度ワークショップでパッケージデザインを行った商品が生まれた地域から、一部をご紹介します。

藤沢市ふささづ瀬郷周辺「彼岸花まつり」

藤沢市北部に位置する「ふささづ瀬郷」は、昔は各所に沼地があり、瀬（かわうそ）が多く生息していたため「瀬の郷」から村名になったといわれています。

この地域の付近を流れる小出川沿いには、長さ3kmにわたり彼岸花が咲き誇り、毎年9月中旬から10月上旬には「彼岸花まつり」として市内外から多くの人々が集って賑わいをみせています。



茅ヶ崎市西久保「民話・河童徳利」かつぼどくり

素晴らしい田園風景が広がるこの地域には小出川が流れ、川に架かる大曲橋は民話『河童徳利』かつぼどくりの誕生した地といわれています。

＜あらすじ＞昔、飼っていた馬に噛みついて村人たちに捕らえられた河童を、馬方の五郎兵衛が助け、そのお礼に飲んでも酒が減らない徳利をもらいました。その後酒を飲んでばかりいた五郎兵衛は、ある日、馬がやせ細っていることに気づき、反省します。五郎兵衛は、徳利の底を三回叩いて酒を止め、それからは一生涯懸命働くようになりました。



寒川町一之宮「梶原景時館址」かじわらかげときやかたあと

梶原景時は、石橋山の戦いで逃亡中の源頼朝を救った縁で、頼朝の側近として鎌倉幕府で重用された人物です。景時は一之宮に館やかたを構えたと鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』に記されています。

もともとこの地は古代から交通の要衝であったと考えられており、江戸時代も主要な街道が交わる場所でした。景時が館やかたをこの地に選んだのも、こうした背景があったのかもしれませんが。



■ 湘南の商品パッケージデザイン展

寒川会場：寒川総合図書館 企画展示室

日時：平成30年2月1日（木）～2月7日（水）

内容：作品とパネル等の展示、映像作品の上映



藤沢会場：藤沢市役所 本庁舎 ラウンジ

日時：平成30年2月14日（水）～2月18日（日）

内容：作品とパネル等の展示、映像作品の上映



茅ヶ崎会場：茅ヶ崎市役所 本庁舎 市民ふれあいプラザ

日時：平成30年2月21日（水）～2月28日（水）

内容：平成28年度及び平成29年度の作品とパネル等の展示、映像作品の上映



事業協力者

佐藤 勝則 氏（ワークショップ講師）

寒川町在住のグラフィックデザイナー。東京芸術大学デザイン学科卒業。

森永製菓の菓子パッケージ製作に長年携わる。チョコボール、食べるシールド乳酸菌タブレット、BAKE、チョコモナカジャンボ、サンデーカップ、ICE BOX など長年親しまれているブランドの他、企業ロゴやグラフィックなどを手掛けている。



前原 佑征 氏（映像制作者）

映像ディレクター。京都精華大学芸術学部映像コース卒業。

アーティストのライブ撮影や、日本を代表するクリエイター真鍋大度が参加するライゾマティクスの展示作品の記録映像制作、音楽家蓮沼執太の展示など様々なプロジェクトに携わる。

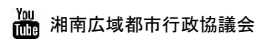
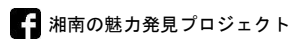


フクナガ コウジ 氏（広報物制作・ワークショップアドバイス・ディレクション）

藤沢市出身のアートディレクター。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業。

近年はWWW、NUMBER SUGAR、植物生活、PARCO 等のアートディレクション・デザイン、イベントや展示会などの宣伝美術や企画・グッズ制作に従事するほか、“LOVE ME AND MISO SOUP.” や銭湯にまつわる作品では日本の文化を広める活動も行う。





協力：熊澤酒造株式会社 社会福祉法人光友会 豊月堂

編集：寒川町

主催・発行：湘南広域都市行政協議会 広域文化活動部会（藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町）

※本書を無断で複製・転載することを禁じます

湘南広域都市行政協議会 広域文化活動部会
(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)